

平成28年度
東京都

スポーツ推進企業取組事例集



東京都オリンピック・パラリンピック準備局
Bureau of Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games Preparation

はじめに

平成 28 年 12 月に東京都が策定した「都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020 年に向けた実行プラン～」では、より身近な場で誰もがスポーツできる環境を整備し、2020 年までに週 1 回以上スポーツをする成人の割合である都民のスポーツ実施率を世界トップレベルの 70%を達成することを目標に取組を推進していくこととしています。

平成 28 年度に東京都が実施した世論調査では、都民のスポーツ実施率は全体で 56.3%ですが、20 歳から 40 歳代の「働き盛り世代」を平均すると、50%に満たない状況にあります。スポーツ・運動を行わなかった理由として、仕事や家事・育児により時間がないことを挙げる人が多く、この世代が 1 日の大半の時間を過ごす企業への働きかけが必要です。

また、3 年後に控えた 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、企業のスポーツに対する関心が高まり、スポーツを推進する担い手としての存在感が増す中、企業の社会貢献への意欲を引き出し、スポーツの裾野を拡大していくことが必要です。

そこで、スポーツに対する社内外への積極的な取組をしている企業を都が認定し、取組事例集にとりまとめ広く都民に周知することで、働き盛り世代のスポーツ活動を推進する「東京都スポーツ推進企業認定制度」を平成 27 年度に創設いたしました。

特に、社会的な影響や波及効果の大きい取組をしている「東京都スポーツ推進モデル企業」の選定にあたっては、社員が行うスポーツ活動の支援や促進に向けた取組を実施している「スポーツの実践」部門、アスリートの雇用や社有スポーツ施設の地域開放などスポーツを支援している「スポーツの支援」部門の 2 つの部門に分け、企業の取組をより明確に示しております。

本事例集では、平成 28 年度に認定した東京都スポーツ推進企業 128 社の取組事例を紹介しております。是非、これらの取組を参考に、より多くの企業において実践していただきたいと思っております。本事例集が企業にとってスポーツ活動に取り組みきっかけとなれば幸いです。

平成 29 (2017) 年 3 月

東京都オリンピック・パラリンピック準備局

目次

東京都のスポーツをめぐる現状	3
平成 28 年度東京都スポーツ推進企業認定制度の概要	5
平成 28 年度東京都スポーツ推進モデル企業取組事例	
○実践 (50 音順)	
① 株式会社クボタ 東京本社	6
② 第一生命保険株式会社	8
③ 東京急行電鉄株式会社	10
④ ドコモ・ヘルスケア株式会社	12
⑤ 日本交通株式会社 赤羽営業所	14
○支援 (50 音順)	
① あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	16
② サントリーホールディングス株式会社	18
③ 株式会社セレスポ	20
④ TANAKA ホールディングス株式会社	22
⑤ トヨタ西東京カローラ株式会社	24
平成 28 年度東京都スポーツ推進企業一覧 (50 音順)	26
平成 28 年度東京都スポーツ推進モデル企業選定委員会	56

東京都のスポーツをめぐる現状

◆東京都の目標

より身近な場で誰もがスポーツできる環境を整備し、都民のスポーツ実施率^{*}が世界トップレベルの70%を達成することを目指しています。

※週1回以上スポーツを実施する人の割合

(平成28年12月公表「都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン～)

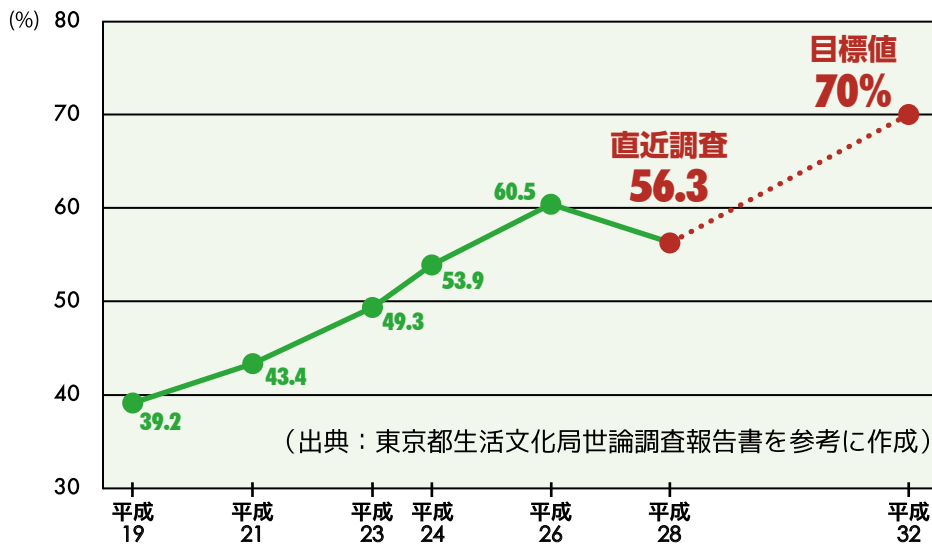
ここでいうスポーツとは

ルールに基づいて勝敗や記録を競うスポーツだけではなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的を持った身体活動の全てをスポーツとして扱っています。

スポーツをより身近なものとし、これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に楽しんでいただくため、スポーツの概念を幅広く捉えています。

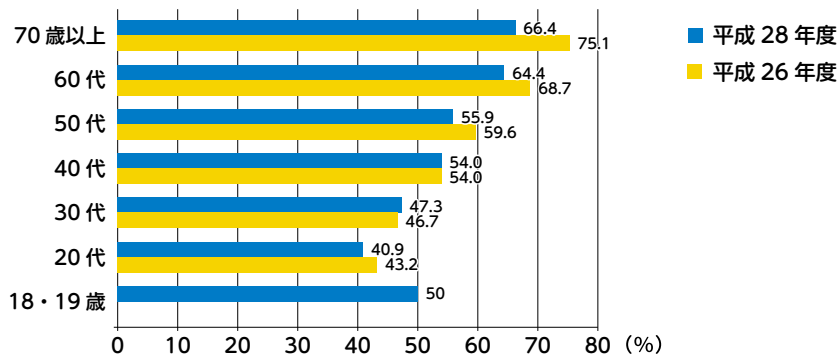
スポーツ実施率について

◆東京都におけるスポーツ実施率のこれまでの推移と目標値



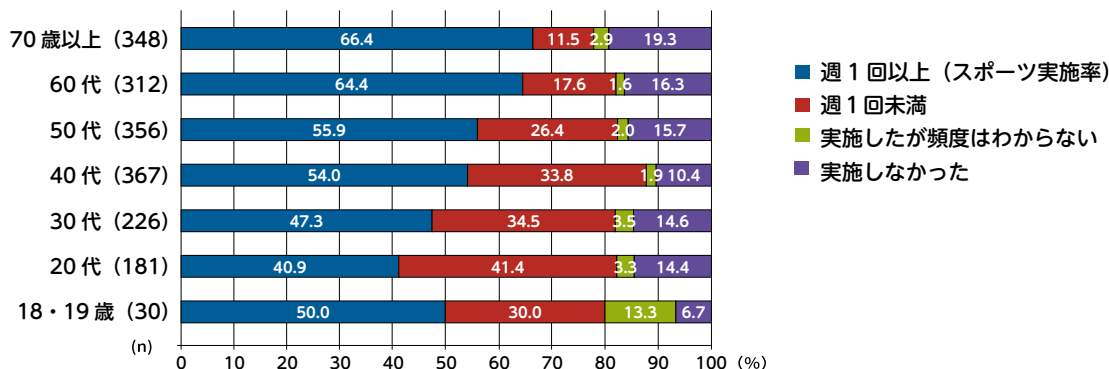
平成32(2020)年の目標はスポーツ実施率70%達成。平成28年度調査では全体で56.3%

◆年代別スポーツ実施率 平成 28 年度と平成 26 年度の比較



平成 26 年度と比べ、30 代～ 40 歳代のスポーツ実施率はほぼ横ばいであるが、週 1 回以上は 50%程度と低い状況

◆年代別スポーツ実施頻度 (平成 28 年度)



20 代～ 40 歳代のスポーツ実施頻度は、週 1 回以上は低いものの、週 1 回未満は 30～40%台と他の世代に比べ高い状況

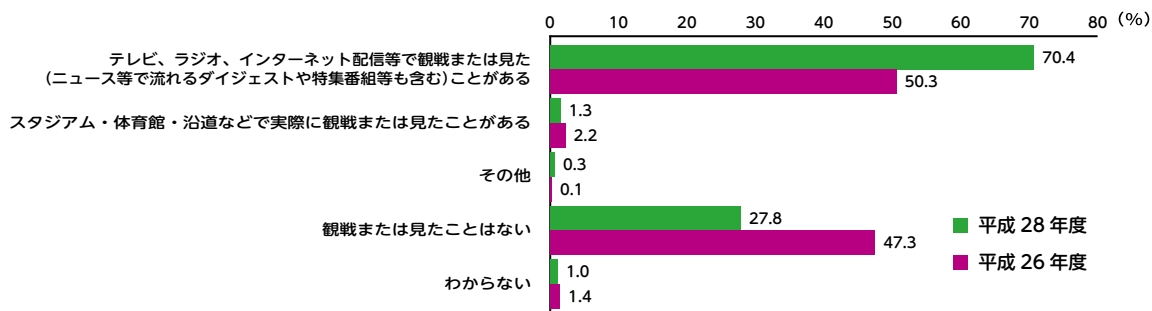
◆スポーツ・運動を行わなかった理由 (平成 28 年度)

「仕事や家事・育児が忙しくて時間がないから」、「機会がなかったから」、「年をとったから」の順

➡ 20～40 歳代の「働き盛り世代」のスポーツ実施率を向上させるため、1 日の大半の時間を過ごす企業に対するアプローチとして、「東京都スポーツ推進企業認定制度」を創設し、企業の取組を広く周知することで、普及を図る。

障害者スポーツについて

◆障害者スポーツの観戦 平成 28 年度と平成 26 年度の比較



観戦・見たことのある人の割合は大きく上昇しているが、実際に観戦・見た人は依然として低い

➡ 障害者スポーツの観戦等を促し、認知度を向上させるため、企業の障害者スポーツに対する取組を「東京都スポーツ推進企業認定制度」により広く周知することで、企業の取組を後押しする。

平成 28 年度東京都スポーツ推進企業認定制度の概要

◆事業概要

「東京都スポーツ推進企業認定制度の目的」

企業のスポーツに対する社内外への積極的な取組を認定し、広く都民に周知することで、働き盛り世代のスポーツ活動を推進するとともに、スポーツに対する社会的気運の醸成を図る。

「東京都スポーツ推進企業」

社員のスポーツ活動を推進する取組や、スポーツ分野における社会貢献活動を実施している企業のうち東京都が認定したもの

⇒認定された企業には

- 認定証・認定ステッカーの交付
- 都ホームページ等において社名等の公表
- マスメディア等に積極的に取組内容の情報提供 等

「東京都スポーツ推進モデル企業」

認定した企業のうち、特に社会的な影響や波及効果の大きい取組をしている企業（学識経験者を含む選定委員会を経て、東京都が決定）

⇒選定された企業には

- 表彰
- 都ホームページや都スポーツイベントで取組内容の公表 等

◆募集対象

都内に本社、事業所を置く企業、社団法人、財団法人、NPO 法人等

◆認定期間

1 年間（更新可）

◆スケジュール（平成 28 年度）

7 月 1 日～ 10 月 31 日	東京都スポーツ推進企業募集
11 月	東京都スポーツ推進企業認定
1 月	東京都スポーツ推進モデル企業選定
2 月	東京都スポーツ推進モデル企業決定
3 月	東京都スポーツ推進モデル企業表彰式

◆平成 28 年度東京都スポーツ推進企業認定数 128 社
平成 28 年度東京都スポーツ推進モデル企業数 うち 10 社

◆関連ホームページ

スポーツ TOKYO インフォメーション「東京都スポーツ推進企業認定制度ホームページ」
<http://www.sports-tokyo.info/company/>

For Earth, For Life

Kubota

株式会社クボタ
東京本社



部活動の推進

クボタ東京本社には、野球・サッカー・テニス・バドミントン・ゴルフ・ランニング・ヨットの7つの運動部があり、部員は総勢110名を数える。会社は毎年度、各部に補助金を支給し、運営をサポートしている。また、各部の積極的な活動を促すため、上記の補助金とは別に、1回の活動あたり、1,000円を支給している。部会によっては、当社他事業所や近隣企業と練習会を実施したり、実業団チームを集めた大会に参加する部活もある。新入社員の配属時期には、社内の各フロアに設置している「デジタルサイネージ」に各部活動の詳細が掲示され、熱心な勧誘が行われている。

その他のサポートとしては、千葉県浦安市に所有するテニスコートを社員に貸し出したり、皇居外周ランニングに便利なシャワールームを、東京本社内に設けるなどしている。

この部活動では、会社内の事業部門の垣根を越えた交流に一役買っている。



東京本社テニス部



終業後のヨガ教室
(執務室内に参加喚起のスライドを掲載して誘引)

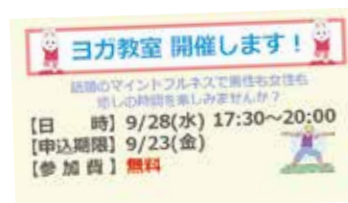
【ラジオ体操】

- ・毎朝の始業前に、ラジオ体操を行っている。参加は任意だが、大半の従業員が実施している。



【ヨガ教室】

- ・年に数回、社内の共有スペースに講師を招き、ヨガ教室を開催している。教室終了後には、ヘルシーメニューの料理を囲んでの懇親会を実施している。



【ウォーキング等の健康づくりの奨励】

- ・クボタ健康保険組合と共同で「健康マイレージ・ヘルスチャレンジ制度」を実施している。ウォーキングを含む多数のメニューの中から、各自が目標を選択し、日々取り組んでいる。その目標を達成すると、与えられたポイントに応じて、賞品と交換することができる。

ラグビーチームの「クボタスピアーズ」を運営している。チームのレベルアップはもちろんのこと、中学生へのラグビー指導や近隣小学校へのタグラグビー授業等、スポーツを通して社会貢献を行っている。



東京都
スポーツ推進大使
ゆりーと



STAFF'S VOICE

従業員がスポーツを身近に感じてもらえるように、なおかつスポーツを通じて、従業員同士の交流が図れる様に意識をし、企画・運営を行っています。上記で紹介している活動以外にも、定期的にボウリング大会やダーツ大会、クボタスピアーズの応援ツアーを開催しています。2016年には、東京本社の家族見学会に、クボタスピアーズのチームマスコット「スピーくん」を招くことで、家族でラグビー観戦をしてもらえるきっかけ作りをしました。

一生涯のパートナー

第一生命

 Dai-ichi Life Group

第一生命保険株式会社



社員・家族の「歩く」を支援

社員・家族へ向けたチャリティーウォーキングの参加推奨

第一生命保険株式会社では社員の健康増進に積極的に関わり、様々な活動を実施している。そのうちのひとつとして、2006年から社員と家族へチャリティーウォーキングの参加推奨を行っている。

WFP ウォーク・ザ・ワールド	世界の子供たちの飢餓撲滅に向け、参加費の一部は国連WFPの学校給食プログラムに役立てられる。
ピンクリボンスマイル ウォーク	乳がんの関心を高め、早期発見・治療の大切さを伝える。

チャリティーウォーキングへの参加によって、健康増進の意識向上だけでなく、各イベント趣旨への関心を持ち、自主的なボランティアマインドを醸成することも目的としている。現在では第一生命グループ全体を挙げて、年間約1100名が参加するようになり、社員と家族のコミュニケーションの場にもなっている。

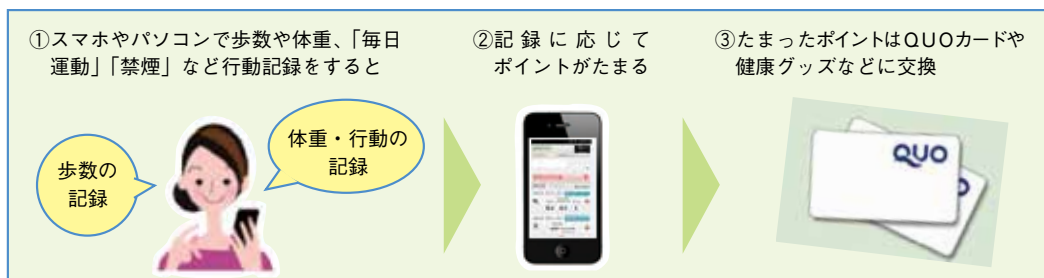
また、2015年からは社員と家族へ、年に1回ウォーキング大会の参加費用を健康保険組合が全額補助する制度が始まった。全国300の大会から自由に選択でき、2年間で延べ2200名が制度を活用している。事業所ごとに各地域のウォーキング大会へ参加するなど、会社全体として、歩くこと・健康への意識が確実に高まってきている。



日本最大のウォーキング大会「日本スリーデーマーチ」にも川越支社を挙げて400名で参加

・ヘルスケアポイント制度

社員の運動習慣化の取組として、歩数に応じてポイントを付与し、健康グッズ等と交換できる制度を実施している。歩数を自動記録できるウォーキングアプリや、ウェアラブル端末を無料で提供するなど、気軽に参加できるよう工夫している。1年間で最大14,000円分のポイントが獲得できるため、運動の習慣化、継続的な健康管理につながっている。



・スポーツや社会貢献等で活躍した社員への社長特別賞の授与

社業に関わらず、スポーツ等で優れた実績を上げる・スポーツの支援を行うなど、会社として誇るべき成果を上げた団体・個人を社長表彰の対象とする制度。全社規模の社内行事にて、直接社長が一人ひとりを顕彰することで、社内のモチベーション向上を目指している。

【受賞事例】



【松本支社 社員】
長野県卓球連盟主催のシニア卓球65歳以上女子の部で優勝



【姫路支社】
地域との強化連携を図り、「世界遺産姫路城マラソン」への協賛・応援に支社を挙げて取り組む



●「Run with Youプロジェクト」・社内ランナー情報の共有

第一生命は、国民の皆さまの健やかな生活のサポートをしていきたいという思いから、誰もが参加でき、楽しみながら日々の健康促進につながる国民的スポーツである「市民マラソン」を支援する「Run with Youプロジェクト」を2015年より実施している。2016年は東京マラソンを含む全国16大会の協賛を行なうとともに、各地でランニング教室やフォーム診断を行う。あわせて社内でも健康に向けてランニングに取り組む社員を増やすために、社内のランナー情報（大会参加情報・タイム等）を、イントラネット・社内報にて全社員で共有する取組をしている。



東京都
スポーツ推進大使
ゆりーと



STAFF'S VOICE

第一生命は社員の健康増進を重要な課題とし、「健康経営」を掲げています。健康に向けた様々な制度が社員を後押しし、意識して身体を動かす人が年々増加しています。同僚同士で会社帰りに皇居ランをしたり、みんなでフルマラソンに挑戦するなど、スポーツを通じて社内コミュニケーションが活性化しています。

いきいきと仕事に取り組むためにも、さらにスポーツを通じ健康に取り組む雰囲気醸成していきます！



東急電鉄

東京急行電鉄株式会社

労使一体となった健康増進イベント



ワークスタイルを変化させ、「歩く」の習慣化を推進

東京急行電鉄株式会社では、従業員向けの取組として、「歩く」の習慣化に力を入れている。

2016年10月の1ヶ月間、WalkBiz（ウォークビズ）スタイルでの勤務を推奨した。ウォークビズとは、歩きやすい靴（スニーカーなど）で通勤・勤務するスタイルを指している。足元を身軽にし、ひと駅歩くことや階段を上ることで、一番長い時間を過ごす職場を運動環境に変えることを目的としている。

ワークスタイルの変化を促すとともに、同月末には東急労働組合とグループ会社との共同開催にて、ウォーキング大会を開催し、従業員約700名が参加した。さらに、同年11月～2017年1月末まで健保組合が推奨する歩数計アプリを利用し、職場単位で歩数を競い合う「職場対抗ウォーキング選手権」を実施している。これは、昨年度より取り組んでいる「職場一丸となって健康を志向する文化」を醸成する試みであり、結果を集計し、成績優秀な部署には最高健康責任者（Chief Health Officer ※以下、CHO）より表彰を予定している。

参加率の高い伝統的なイベントと新たな取り組みを連動させることで、歩く習慣づくりを推進する。

2016年9月30日
人材戦略室 労務学生部

WalkBizのご案内

10月1日～10月31日の1ヶ月間を「秋のWalkBiz月間」と位置付け、健康経営の一環として、歩きやすい格好での通勤・勤務を推奨いたします。

ウォークビズとは

- ウォークビズとは、歩きやすい靴（スニーカーなど）で通勤・勤務するスタイル。
- 一番長い時間を過ごす職場を運動環境に変えるのがウォークビズスタイルです。
- 足元が身軽になれば、ひと駅歩くことも階段を上ることもずつと楽になります。
- この秋、スマートで気持ちの良い会社生活と運動習慣を足元からはじめましょう。

◆適度な運動を「はじめる・続ける」にはウォーキングが効果的◆
適度な運動を「はじめる・続ける」には、ウォーキングがとても効果的です。
「毎日歩いて健康づくりを実践し、運動不足や肥満、ストレスを解消しましょう。」

◆ウォーキングの目標は「1日8,000～10,000歩」です◆
運動の時にひと駅前で降りて歩くなど、工夫をして運動習慣をつけましょう。

歩く習慣を付けるためKENPOSウォーキングアプリの利用を推奨いたします。
また、歩く習慣をつけ、10月29日のウォーキング大会に参加しましょう！



ウォーキング大会 (10月開催)

年間を通じた健康促進イベントの開催

ウォーキング大会のみならず、運動会・駅伝大会も労働組合との共催にて年に1度開催をしており、どちらも例年1000名以上の参加規模となる、伝統的な大イベントとなっている。また、ウォーキング大会・運動会は、従業員のみならず、そのご家族にも数多く参加していただき、健康宣言（※）にて掲げる従業員とそのご家族の健康づくりの一環として、運動する楽しさやウォーキングの習慣化を促進している。

※健康宣言

2016年2月1日にCHOを設置し、同日付にて健康宣言を制定。この宣言では、①従業員およびその家族の健康、②沿線に住まう方の健康増進、③健康促進を通じた社会貢献の3つを掲げ、従業員の心身の健康管理や、沿線のお客さまの健康づくりにも積極的に取り組んでいくことを明示している。（詳しくはホームページをご参照ください）



運動会（5月開催）



駅伝大会（11月開催）

①部活への支援

野球やサッカーなど11の運動部を会社公認の部活とし、コート使用料や懇親会費用の補助金を支給。

②オフィスでの体操活動

毎日、午前午後の2回全社に体操の音楽が流れ、業務のリフレッシュとして数分程度の体操を実施。



東京都
スポーツ推進大使
ゆりーと



STAFF'S VOICE

当社創業者である五島慶太は、『人の成功と失敗のわかれ目は第一に健康である。次には、熱と誠である。体力があって、熱と誠があるならば、必ず成功する。』と残しております。健康が不可欠という考えは、当社の価値観として創業当初より脈々と受け継がれてきました。

現在は、CHOを筆頭に、企業立病院である東急病院と人材戦略室が連携を図りながら、健康増進の取り組み、従業員一人ひとりの「意識変容」と継続的な取組となるように一人ではなく「職場一丸となって健康を志向する文化」を醸成することを意識して推進しています。

NTT
docomo
HEALTHCARE

ドコモ・ヘルスケア
株式会社



みんなで歩こう&走ろう！
キャンペーン

ドコモ・ヘルスケア株式会社では、お客様の健康を支えるサービスを提供している。お客様はもちろんだが、まずは従業員が健康であることが重要と考え、ドコモ・ヘルスケア1社ではなく、ドコモグループ全体、そして全国のドコモショップスタッフも巻き込んで、健康増進イベントを2014年から開始した。

自社のウェアラブル端末「ムーヴバンド」を使った歩数対抗戦「みんなで歩こうキャンペーン」では、個人戦だけではなく、部署単位の団体対抗戦を実施。チームの仲間意識やコミュニケーションも活性化し、仕事にもいい影響が表れている。

「みんなで歩こうキャンペーン」はウェアラブル端末で計測した歩数や、歩数計アプリで獲得したポイントで競うイベント。2015年はドコモの「Runtastic for docomo」のランニングアプリとコラボして、「みんなで歩こう&走ろう！キャンペーン」を実施した。

キャンペーン後に実施するアンケートをもとに、誰もが楽しめる工夫をし、毎年ルールを変更している。たとえば、2016年には、歩数がそれほど多くない人でも表彰されやすくなる仕組みを作った。体にとって、過度なウォーキングは必ずしも健康にいいわけではないことから、健康にいいと言われている8000歩を歩いていれば、誰でも表彰の可能性があるように自社アプリを活用した。さらにキャンペーン期間中は、特設サイトで毎日自分の順位がわかり、つつい歩いてしまいたくなるようモチベーション向上につなげた。

ルールの工夫もあって、2016年には7000エントリーがあり、過去最大となった。参加者からも「社員の健康増進や、職場でのコミュニケーションのきっかけにもつながる」と好評である。



社長・支社長が掲載された
ポスターを全組織に配布

ドコモ・ヘルスケア社製
「ムーヴバンド3」を活用

■椅子代わりにバランスボールを利用

- ・社員からの提案で、イスの代わりにバランスボールを利用。仕事をしながら運動もできる。



社員の声

腰痛もちなため、座った姿勢が長く続くと痛みがでます。昇降デスクは体にもよいし、気分転換にもなるのでとても気に入っています。

(40代男性社員)

■昇降式デスク

- ・立ったり座ったりすることで、デスクワークによる体の負担を緩和し、仕事に集中できる。

オフィスでは、さまざまなスタイルで仕事をしています。



●社内歩数対抗戦

- ・ウェアラブル端末「ムーヴバンド3」と歩数アプリを活用し、チーム対抗戦を実施！

●コンディショニング講座

- ・朝活として姿勢や腰痛改善のストレッチを実施。

●全従業員にムーヴバンドを貸与

- ・歩数・睡眠の計測で健康を促進。

●在宅勤務や勤務時間変更で運動時間の確保

STAFF'S VOICE

普段から健康意識の高い社員が多く、会社の取組を通して、体が健康になるだけでなく、健康の知識がどんどん身についています。

さらに、ウェアラブル端末の「ムーヴバンド3」で毎日の歩数や早歩き時間、睡眠の時間と質を測れるので、生活の見直しや改善につながられました。自分の歩数や睡眠時間と質（深い・浅い）がグラフで分かると、「もっと良くしたい！」とモチベーションが上がります。

最近では、家族や友達からも健康相談を受けることがあり、プライベートでも役に立てるのが嬉しいです。





ウォーキングを兼ねた 清掃ボランティア

平成24年より日本交通労働組合と赤羽営業所が一体となって実施している清掃ボランティアは今年1月で230回を数えた。

毎週木曜日6時からウォークラン教室、その続きで7時15分より約1時間、会社施設内やJR北赤羽駅までの公道をウォーキングしながら、吸い殻や空き缶などのゴミ拾いをする流れは創設以来変わらない。各自が自由参加で健康増進と社会貢献活動に取り組んでいる。

北区や地元の自治会長の支援を得て活動をしており、この活動を通して地域の人々との交流を深めるとともに、参加するメンバー間のコミュニケーションの構築にも繋がっている。

参加者の延べ人数は3,500人を突破した。この活動が赤羽営業所の全てのスポーツ活動の入り口であり原点である。ここでのコミュニケーションを通じて駅伝、ゴルフ、フットサル等活動の幅を広げていく。



社員の手作り運動会



駅伝大会は平成24年に開始し、初回は国立競技場で実施した。その後は、戸田競技場を貸し切り、コースを設定し、赤羽営業所の運動会的な位置づけで実施している。平成28年12月で7回を迎え、30チームが参加している。

参加チームは所内の「野球部」「サッカー部」「空手部」「釣り部」「ゴルフ部」など運動部や、「三月会」「若葉会」「一心会」「A友会」など所内サークルが代表を選出して優勝を競い合っている。

優勝を目指すチームと楽しく走るチームの混走は観戦していてとても面白いレースになっている。

ウォークラン教室

数々の陸上部コーチ経験がある所長の指導の下、科学的手法を取り入れたウォーキングを実施している。

平成24年12月から開始したウォークラン教室も5年目に入り開催回数は200回を超えた。

初回参加者は「歩き方」講座を必ず受けている。毎週木曜日6時に集合し、1キロほど離れた公園まで「正しい姿勢」で歩くことをルールとして実施している。公園に到着後は、一周1.1キロのコースをウォーキングまたはランニングする。

その後、営業所に戻り、7時15分からの清掃ボランティアに移行する。



●会社施設にズームイン!

仕事柄運動機会が少ないため、意識的に運動を取り入れようと本社に乗務明けの軽い運動が出来るように「アスレチックジム」を開設した。



●フットサル大会

平成21年から開始したこの大会は今年で9回目を迎える。昨年度は見事優勝した赤羽支部のチームが連覇を目指し奮闘した。惜しくも連覇は出来なかったが、チームの絆はさらに強まった。



東京都
スポーツ推進大使
ゆりーと



STAFF'S VOICE

「運動することのハードルを下げるのが大切」という所長の言葉の下、各々取り組みやすい運動から参加しています。

決して上手くやることも速く走ることも正確なフォームでする必要もなく、「ただ楽しんでやること、継続すること」が大切であることに気付きさらに、気軽に「やってみよう」と思える環境があれば参加する人は増えるのではないかと考え、職場内に24時間利用可能なフィットネスルームの設置や、卓球ルームを設け「視界に運動できる環境が飛び込んでくる」営業所を実現しています。

これらの環境づくりは、健康維持はもちろん社員同士のコミュニケーション活性化につながっています。

あいおいニッセイ同和損害保険

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和 損害保険株式会社



【東京都】

所属アスリートによる小学校での体験授業の実施



【渋谷区】

障害者イベント「超福祉展」でのシンポジウム参加

小さなことからコツコツとカタチにし、企業文化として育てる

(1) 社員による大会応援

当社では、『観て、感じて、考える』をスローガンとして、社員による大会応援を積極的に実施している。

多くの社員が障害者スポーツを観ることにより、感じるモノを得、その輪が広がってきている。とりわけ、当社所属のアスリートが出場する大会では、大きな盛り上がりを見せている。

観戦者へのアンケートも3年前から継続して実施しており、「次回は家族も連れて来たい」、「生き方を考えさせられた」、「もっと選手の支えになることをしたい」、「触れ合える場をつくってほしい」など、社員の意識変化が見て取れるようになった。

(2) 所属アスリートのチームビルディング

全国に配属している9名のアスリートが年4回ほど集合し、以下の2点を狙いとしてアスリート懇談会を実施している。

- ①アスリートのチームビルディング研修
- ②地域や会社に何ができるかを考える

アスリートは応援してもらっただけでなく、自らができることを常に考え、実践することが重要となる。そのことにより、社員や地域の方々との双方向コミュニケーションが成立すると考えている。アスリート間で刺激し合いながら、意識の高いアスリートへの成長を期待している。

(2017年度はさらに9名が内定)



(1) 障害者スポーツ大会応援時のグッズ作成

スティックバルーン



社内掲示ポスター



★社内ポスターは意識喚起ツールとして全拠点に配布

(2) 当社金杉社長がリオ・パラリンピックへ

文科省水落副大臣、スポーツ庁鈴木長官と。選手村にて。



(3) 雇用障害者アスリートのリオ・パラリンピック出場壮行会の実施



(4) 大学体育会への監督人材派遣

早稲田大学鎌田薫総長とスキ一部監督



(5) 障害者スポーツの情報発信

特設サイト「AD Challenge Support」に加え、新たにfacebookでの発信を実施



AD Challenge Support

障がい者スポーツ
応援サイト

ADチャレンジ 検索



① 小学校での体験授業

自治体と連携して、雇用するアスリートが小学校で体験授業を実施。子どもたちの教育や地域に貢献できるような活動を実施している。



② 新入社員研修 「障害者スポーツ支援講座」

障害者スポーツを通じて共生社会の理解、人間力醸成を図ることを狙いとしている。

3回で1クールとしている。
 <4月>座学……「知る」
 <夏期>現場……「観る」
 <11月>座学討議……「考える」



東京都
スポーツ推進大使
ゆりーと



STAFF'S VOICE

当社は、競技の現場を観ることが大事であると考え、大会応援を取組みの柱の1つとしています。

当社が雇用するアスリート2名がリオ2016パラリンピックに出場したことにより、社内的なムーブメントが沸き起こり、社員の応援にも一体感が出始めました。

併せて、他のアスリートも刺激を受け、意識が変わり始めました。パラリンピックを契機に強化の環境づくりの必要性も感じました。

これまで一つひとつカタチにしてきた活動の品質を高め、継続して取組んでいきたいと思っています。

SUNTORY

サントリーホールディングス 株式会社



サントリーチャレンジド・スポーツプロジェクト ～ PASSION FOR CHALLENGE ～

SUNTORY
PASSION
FOR
CHALLENGE



サントリーグループには、創業以来、「やってみなはれ」にもとづく挑戦の精神が脈々と受け継いでいる。だからこそ、「障害者アスリートたちの果敢な挑戦、そしてその無限大の可能性にエールを送りたい」との想いから、障害者アスリート（チャレンジド・アスリート）に寄り添った活動を展開している。

2014年に東日本大震災復興支援の一環として、東北でチャレンジド・スポーツ（障害者スポーツ）支援を開始した。2015年からは、復興支援に留まらず日本のチャレンジド・スポーツを応援している。日本障がい者スポーツ協会および日本車椅子バスケットボール連盟のオフィシャルパートナーとして、各大会運営や車椅子バスケットボール日本代表候補選手のサポートを行っているほか、体験教室やアスリートへの奨励金給付などを継続的に実施している。そして、一人でも多くの方に競技・選手の魅力を伝えるべく、HPやSNSでの情報発信や、アスリートの競技にかける想いを紹介する連載企画「OUR PASSION」の開始、車椅子バスケのルールを分かりやすく説明する映像を制作するなど幅広く普及活動を行っている。

サントリーグループは、「PASSION FOR CHALLENGE」を掲げ、これからもアスリートとともに挑んでいきます。



サントリー主催の車椅子バスケ体験教室

社内イベントにおける車椅子バスケ体験教室

東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」 チャレンジド・スポーツ支援

サントリーチャレンジド・アスリート奨励金

チャレンジド・スポーツの振興や世界レベルの選手の育成・強化を目指し、チャレンジド・アスリート個人および団体へ助成している。2017年までに述べ149名・61団体へ約1億円を助成しており、競技用具の購入費や遠征費などに活用している。

リオパラリンピックには、奨励金対象選手から8名が日本代表として出場した。



車椅子バスケット体験教室「アスリート・ビジット」

チャレンジド・スポーツの普及を目指し、東北3県（岩手・宮城・福島）の学校や公共施設で車椅子バスケット体験教室を年間10回以上開催している。車椅子バスケットチーム「宮城MAX」などに所属するアスリートが学校や公共施設を訪れ、車椅子バスケット体験指導やトークショーなどを行っている。

2016年までに3,000名以上が参加し、「困難に屈せず挑戦する姿勢を学んだ」「とても楽しかったので、会場に観戦に行きたい」などの感想をいただいた。



チャレンジド・スポーツ育成サポート

チャレンジド・スポーツの普及・育成のため、アスリートが練習拠点としている公共施設3カ所の改修や、行政への競技用具寄贈（競技用車椅子35台、STT用卓球台5台ほか）を行った。また、競技人口の裾野拡大のため、車椅子スポーツ未経験者を対象とした車椅子操作スキルアップ研修会を開催している。



東北の車椅子バスケットチーム（4チーム）のサポート

体験教室にも講師としてご協力いただいている、東北の車椅子バスケットチーム「宮城MAX」「TEAM EARTH」「SCRATCH」「ラッセル岩手」の活動をサポートしている。



●谷真海（佐藤真海）選手の活動サポート

サントリーホールディングス㈱正社員でパラリンピアン
の谷真海選手の競技活動をサポートしている。また、
2011年6,608人、2012年4,814人、2013年8,328人と、
これまでに2万人を超える子どもたちや学生と直接
触れ合い、自分の体験をベースとした出張授業やワー
クショップを実施した。また、サントリーグループの東日本
大震災復興支援活動「サントリー東北サンさんプロジェクト」
では、自転車レース「ツール・ド・東北」に出場して沿岸の
様子を紹介したり、奨学金を届けた水産高校で講演を行
うなど、東北復興支援の“サポーター”としても活動して
いる。



東京都
スポーツ推進大使
ゆりーと



STAFF'S VOICE

サントリーグループ一体となっ
て、チャレンジド・スポーツの普及
に取り組むため、毎年グループ社員
3,000名が集まる社内イベントにて
車椅子バスケット体験教室を
開催し、サントリーラグビー部
「サンゴリアス」やバレーボ
ール部「サンバース」も参加
して盛り上げています。また、
車椅子バスケットをはじめ
チャレンジド・スポーツの大会
に社員観戦や社員ボランティア
を募り、社内のファン創出に
努めています。社員観戦に参
加した社員からは、「想像以上の
スピード感と選手の素晴らしい
技術を肌で感じ、日ごろの鍛
錬を想像して率直にすごいと
思った」「一生懸命戦う姿に
障害の有無は関係ないと感じ、
感動して涙が出た」などの感
想がありました。

セレスポ

株式会社セレスポ



未来のトップアスリート達の夢をサポート

オールキッズトライアスロン大会を多方面から支援

私たち株式会社セレスポは、「イベントを通じて笑顔のある明るい社会づくりに貢献」を掲げており、スポーツイベントに携わる企業として、アスリートに対する支援及び競技団体への協賛を通じスポーツ振興に取り組んでいる。

こうした取組の一環として、トライアスロン競技の小学生・中学生を対象とした全国大会「オールキッズトライアスロン大会」へ2011年より協賛している。キッズトライアスリートを対象とした大規模の大会は数少なく、全国のキッズトライアスリートが目標とする大会に位置付けられている。国内トップレベルと同様の仕様でこの大会会場をセッティングすることで、1人でも多くの子供達がトライアスロンに憧れ、将来への夢を持つきっかけとなるサポートを目的にしている。現在世界でも活躍しているトップ選手も過去にこの大会に出場した経験のある選手が多い。この大会には小学1年生から中学3年生までの600人以上が全国から参加し、白熱したレースを繰り広げた。



勢いよくスイムスタート



トップレベルの大会と同様のフィニッシュエリア

【陸上部の保有】

陸上競技において、大きな可能性を持つ選手の育成と夢の実現を応援するため、2013年に陸上部を設立し、女子中距離の選手を中心に、競技を継続できる環境を提供している。大会前には出場情報を発信し現地応援を呼びかけ、同期社員、同部署、会場近隣拠点の社員を中心に応援している。大会後には結果を社内に発信するなど、社内一丸となった応援によるスポーツ気運の醸成を図っている。引退後も正社員として雇用を継続していくため、配属部署の業務を通じて、社会人としての基礎的な能力が習得できる環境づくりにも取り組んでいる。

【陸上クリニックの実施】

陸上部に所属する選手が中心となり「セレスポ陸上クリニック」を実施している。子どもたちのスポーツに取り組むきっかけを提供し、走ることや体を動かすことの楽しさを選手自らが直接伝えている。2016年2月には岩手県滝沢市、12月には静岡県磐田市で開催し、約300名の中学生とスポーツを通じたコミュニケーションを行った。当日の様子は地元の新報でも取り上げられ、地域のスポーツ振興にも貢献している。



【岩手県総合型地域スポーツクラブに寄付金贈呈】

東北沿岸地区の被災地におけるスポーツ振興に役立ててもらおうと、岩手県国体・障がい者スポーツ大会局、岩手県体育協会を通じて、岩手県内の総合型地域スポーツクラブ3団体に寄付金を贈呈した。これは2014年より行なっている取組で、セレスポ社員による寄付金に会社からの寄付金を加えたものが贈呈されている。寄付金はクラブの運営費にあてられ、スポーツを通じた地域の交流に役立てられる。

●日本パラ陸上競技連盟の支援継続

障害の有無にかかわらず陸上競技全体の更なる発展に向けて支援している。スポーツイベントに合同でブースを出展した。競技用車いすの展示や体験、アスリートの紹介など、競技の認知度・理解度向上に努めている。



東京都
スポーツ推進大使
ゆりーと



STAFF'S VOICE

陸上クリニックを通じて指導することの難しさを実感すると同時に、子どもたちの素直な反応に刺激を受け、学ぶことも多くあります。一度きりの陸上クリニックで足が速くなるわけではありませんが、新しい刺激を受け、身体を動かすことで何か感じられることもあると思います。スポーツとの関わり方は一人ひとり違います。活動を通じて自分のスタイルを見つけるきっかけ作りができれば幸いです。限られた時間の中でやっていることは小さい取り組みかもしれませんが、小さい種をたくさんの方にまぎ続けたいと思います。これからも「笑顔のある明るい社会づくり」を目指し活動をしていきたいと思っています。

中村真悠子（陸上部、3000m障害）



TANAKA
ホールディングス株式会社



障害者スポーツ体験プログラムの実施

コミュニケーションやチームビルディングの大切さ、難しさを学ぶ

TANAKAホールディングス株式会社は、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナー契約をはじめとする、障害者スポーツへの支援・応援を実施している。

平成28年度は、従業員による障害者スポーツの体験や、その情報に触れる機会を増やす施策を展開し、その取組の一つとして、企業運動会での障害者スポーツ体験プログラムを行った。

企業運動会当日は、会場へ日本ブラインドサッカー協会の方を招き、運動会参加者全員による体験プログラムを実施している。体験後には、「相手のことを思いやりながら、伝える、耳を傾けることで、個々の力が一つになったときの大きさを感じた」という声が上がったように、目隠しの状態を体験することで、コミュニケーションやチームビルディングの大切さ、難しさを学ぶ一日となった。

また、運動会に参加していない拠点の従業員にもそのプログラムの内容とメッセージを伝えるため、許諾を得た上で、その一部を撮影しDVDに編集し、国内外のグループの拠点へ配布。そこで得た学び・気づきを共有している。



鈴の入ったブラインドサッカーのボールを使ったゲーム

大玉送りや大縄とびなどの種目も実施

障害者スポーツを「見る」・「知る」・「支える」ことで、可能性への挑戦を学ぶ

企業運動会やスポーツサークル活動の奨励といった、実際に従業員がスポーツを「する」活動だけでなく、障害者スポーツを「見る」・「知る」・「支える」活動も展開している。

障害者スポーツ競技とアスリート、それに携わる方々との直接の交流や、その情報を会場を訪れることが難しい拠点の従業員むけに紹介するツールの作成・設置・配布などを通じ、人間一人ひとりが持つ可能性の素晴らしさや挑戦の重要性について、改めて学ぶ機会としている。



「全国障害者スポーツ大会」
ボランティア参加
於：岩手県



本社および事業所における
障害者スポーツ写真展の実施



障害者スポーツ紹介小冊子の作成

● ジャパンパラ競技大会 応援観戦・ボランティア活動

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が主催するジャパンパラ競技大会では、夏季・冬季の大会を通じ、応援観戦と、会場設営ボランティア活動などへの参加を行っている。



東京都
スポーツ推進大使
ゆりーと



STAFF'S VOICE

企業運動会は社員から実行委員を募り、実行委員会形式で企画・実施しています。実行委員は社歴のまだ浅い従業員にのみ参加資格を有するため、活動を通じて他部署の人を知る良いきっかけとしても機能しています。

また、障害者スポーツの「見る」・「知る」活動における工夫点としては、日本各地の大会会場へ実際に行くことが難しい拠点の従業員にも情報を展開できるよう、逆にその拠点に情報ツールを持ち込む・配布する、動画で見せるなどの手法をとっています。

トヨタ西東京カローラ
株式会社

トヨタ西東京カローラ



復興支援多摩少年野球大会・
小学生向けフットサル大会の開催

今まで小学生対象のバスケットやマラソン等様々な地域スポーツへの取組みを展開してきたが、28年度より新たに子供達を対象としたスポーツの取組を2つスタートした。

1つは復興支援多摩少年野球大会“トヨタ西東京カローラ杯”の開催。この大会は2011年に起きた東日本大震災、2016年に起きた熊本地震の復興を願い行った大会で、福島県のチームも参加し、学童の部10チーム、少年の部16チーム、約500名が参加し白熱した試合を繰り上げた。

もう一つが小学生のチームを対象に“西東京カローラフットサル大会”の開催。これはJ2リーグのFC町田ゼルビアとのコラボにて行い、小学3年生以下5チーム、6年生以下6チーム、合計11チーム91名が参加し、リーグ戦を戦い優勝したチームとゼルビア選手とのゲームはプレーしている子供達はもちろん、周りで見ている子供達もプロ選手のボール捌きに夢中で観戦していた。

今後もこれらの大会は継続していき、地域の多くの子供たちの健全な成長に寄与していきたい。



サンタマラソンのゴールシーン



毎年好評の
バスケットクリニック&ミニゲームカップ

トヨタ西東京カローラは、スポーツ・子供・地域という言葉のキーとして、地域のスポーツ大会を中心に積極的に取組を展開している。

ここでは3つの取組を取り上げると、まず1つ目は、聖蹟サンタマラソンへの支援。約1,000人の参加者全員がサンタクロースの格好をして走り、大人から子供まで参加できる大変面白いマラソン大会で、参加している子供達も周りのサンタさんたちに興味津々の様子で楽しんでいる。

2つ目は、多摩ロードレースへの支援。市民のみならず各地から2,000人以上のランナーが集まる伝統的なロードレース大会で、多摩丘陵のアップダウンに富んだコースをランナーが早春のさわやかな風を感じながら疾走する人気の大会である。

最後に、聖蹟桜ヶ丘リレーマラソンへの支援。親子駅伝やひよこの部等も有り、生涯スポーツ「ランニング」を赤ちゃんから大人まで楽しめるマラソン大会で、多摩のロケーションを体験でき、地域愛が生まれるイベントである。

上記の大会にメインスポンサーとし協賛、運営にも参画しており、また社長を筆頭に当社社員も積極的に参加し大会を楽しんでいる。

今後も地域社会の健康に微力ながら寄与できれば、特に元気な子供たちが増え、国際大会を目指す子供たちが育つお手伝いが少しでも出来ればと考え取組を継続していく。



プロバスケットチームアルバルク東京とのコラボによる地域小学生を対象としたバスケットボールクリニック&ミニゲームカップを毎年開催しており、子供たちはもとより親御さんにも大変好評頂いている。

プロ選手によるバスケットクリニックとミニゲーム大会を開催し、優勝チームはプロの選手と対戦できる等、プロの選手を間近に感じ、一緒にプレーすることで、地域の子供たちがトップレベルのスポーツ体験ができ、子供たちもこの貴重な体験に目を輝かせ楽しそうに参加している。

東京都
スポーツ推進大使
ゆりーと



STAFF'S VOICE

開催にあたり準備など大変なこともありますが、参加者の顔、特に子供たちの目を輝かせた笑顔を見るとやって良かった、来年も是非やりたいという気持ちになります。

各取組みの特徴としては、地域団体・行政と連携し、協力しながら行っています。

平成28年度東京都スポーツ推進企業一覧(50音順)



株式会社 IDC フロンティア



スポーツ大会への社員参加及び 参加社員の応援ツアーの実施

東日本大震災復興支援を目的としたツール・ド・東北に2016年は社員27名がライダーとして参加した。同時に社員による応援ツアーも実施し大会を盛り上げた。会社としてもスポンサー協力をしている。2015年、2016年、2年連続継続参加をしている。



アクセントゥア株式会社



障害者アスリートの雇用及び 大会出場等活動支援

障害者アスリートを雇用し、国際大会出場における支援することで競技に打ち込める環境を整えている。また、リオパラリンピック出場を受けて、社内で壮行会や報告会を行うことでパラリンピックへの関心を高めたほか、社員の理解促進や交流を図った。



街の鼓動に敏感です

朝日信用金庫

朝日信用金庫



職員スポーツ活動に対する支援

毎日、朝礼時に、ストレッチ体操「信ちゃんストレッチ」を実施している。また、クラブ活動の試合に際して、交通費・親睦会費用の補助、職員の応援団を組織するなど、職員のスポーツクラブ活動を積極的に支援・推奨している。



株式会社アシックス



障害者スポーツの試合観戦 及び体験会の実施

社員の障害者スポーツに対する知識・理解を深めるため、障害者スポーツの試合観戦及び体験（車いすラグビー、車いすテニス、シットイングバレー、ブラインドサッカー等）を行っている。また、社内でも障害者スポーツのパブリックビューイングや用具の展示を行い、多くの社員が障害者スポーツに接する機会を得られるよう図っている。



株式会社アスティーク



スポーツ大会への社員派遣を 通じた大会運営支援

東京都少年サッカー連盟第10ブロック2・3年生大会（アスティークカップ）を協賛しており、社員による会場設営・撤去・選手誘導・試合撮影・写真データの提供などの大会運営補助を行っている。



株式会社アスリートプランニング



スポーツ大会の観戦

六大学野球、アメフト、ラグビー、競漕、サッカー、相撲等の各種大学スポーツの大会観戦を積極的に実施している。今年度は、六大学野球、アメフト、ラグビー、サッカー等12種目の応援ツアーを実施した。また、社内でも従来からあった陸上部に加え、新たに野球部が立ち上がった。



株式会社アセットリード



ブラインドサッカー協会への協賛・ 各種体験会イベントへの協賛

小・中学校へのブラインドサッカー体験授業「スポ育」への協賛をしているほか、新卒採用の選考手法の一つとして、ブラインドサッカーのワークショップを導入するなど、スポーツを通じて障害者と健常者が共生する社会を実現するため、様々な取組を行っている。



アポロメディカルホールディングス株式会社



オフィスへの運動器具導入

オフィスにトレーニングマシンやバランスボールを導入している。トレーニングマシンについては、休憩時間中や業務終了後に気軽に利用できるように、複数種類の運動ができるマルチタイプのものを設置しており、バランスボールについては、普段の事務作業中の椅子がわりとして使用している。

AMIQUE

Amique Group Co.,Ltd

株式会社アミックグループ



スポーツ大会・イベントへのボランティア派遣や参加

スポーツ大会やイベントへ、運営ボランティアを派遣するなど支援を行うことで、大会やイベントの活動サポートを実施している。また参加した大会やイベントの情報を、ホームページやSNSなどを活用し情報発信をすることで、大会やイベントの盛り上げに貢献している。

Amedia

株式会社アメディア



3分間ストレッチの実施

デスクワークで凝り固まった、首・肩・腰を軽くするため、午後3時に声掛けをし、各社員が自席で参加する『3分間ストレッチ』を実施している。知識のある社員が先頭に立って、各社員が自分のタイミングでも出来るよう、習得するまで繰り返し指導している。

ALCARE

アルケア株式会社



障害者アスリートの雇用及び情報発信等活動支援

障害者アスリートを雇用しており、リオパラリンピックへの応援ツアーの実施、壮行会や結果報告会の実施、特設ページや社内報、Facebookでの情報発信などを行ったほか、社員が自由にメールやSNSを通じて応援の気持ちを伝えられるようにし、障害者アスリートと社員との交流を促進する取組を行っている。

ANSIN-LINK

株式会社 ANSIN-LINK



アスリートの雇用及び応援観戦ツアーの実施

フットサル・硬式テニス・ゴルフ・野球・陸上・スノーボード等、社員がスポーツをする機会を社内サークルとして、定期的に設けている。
また、雇用している社員がプロ選手（ボクシング・スノーボード）／アマ選手（クライミング・陸上・カヌーポロ・水泳）として出場する大会の応援ツアーを実施している。



Challenging Tomorrow's Changes

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社



スポーツ大会・イベントへの ボランティア派遣等の環境整備

社員がスポーツイベントへ積極的に参加することで健康増進を図るとともに、一体感の醸成に努めている。その一環として、「NIPPON IT チャリティ駅伝」への協賛を実施している。ボランティア休暇制度の活用を呼びかけ、東京マラソンなどのスポーツイベントへの積極的な参加を促している。



株式会社イトーキ



オフィス環境の整備による 健康活動の促進

自由な姿勢で活発にミーティングができるよう吊り輪などを設置したフレームシステムや上下昇降デスクなどを導入しているほか、社内での歩行や立ち作業促進のため、働き方、作業パフォーマンス、消費カロリーなどを分析できるアプリケーションを無償リリースしている。



株式会社ウェルネスファームひょうたん島



スポーツ大会への社員派遣を 通じた大会運営支援

八丈島内各スポーツ大会（バレーボール、柔道、ロードレース等）に救護係として参加しているほか、島内運動会に企業チームとして参加している。また、有資格者（柔道整復師）の社員が島内中学、高校での部活動において外部コーチとして活動している。



ウェルネス・ブランド・コーポレーション



地域イベントへの協力を通じた 健康増進・運動推進・支援活動

地域の皆様の健康増進を目的に、腰痛予防、立ち方・歩き方・運動法・ダイエットなどの姿勢ケアの教室を毎月実施している。また、学校・企業・地域コミュニティ向けに姿勢と健康についての専門講座や企画を実施している。姿勢や運動の大切さを伝え、自らが健康であり続ける体づくりができるように、地域の人々を支援している。



エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社



障害者アスリートの雇用及び 大会出場等活動支援

障害者アスリートを雇用しており、リオパラリンピックの社内パブリックビューイングの実施や社内イントラの情報発信、応援メッセージの募集、アスリートの競技生活費のサポートを行っているほか、障害者スポーツ啓発映像の作成や障害者スポーツ啓発イベントの実施をするなどの取組をしている。



SG ホールディングス株式会社



社内スポーツ大会の実施や スポーツ振興及び次世代育成

毎年5月にグループ保有施設にて大運動会を実施している。事業会社混合チームや、全国各支店別など合計25チーム、1,000名を超える参加者が対抗戦を通じて、社員・家族の繋がりを深めている。また、実業団スポーツチームによる小中学生向けの講習会実施や小学生対象のスポーツ体験イベントへの協賛等、スポーツ振興及び次世代育成を支援している。



SCSK 株式会社



スポーツイベントの開催 (チャリティーランニング)

スペシャルオリンピックス日本と共催でチャリティーランイベント「エールラン」を開催し、社員がスタッフ及びランナーとして参加している。また、社員の健康のための行動習慣と健康診断結果に応じたポイント数でインセンティブとして特別ボーナスを支給する「健康わくわくマイレージ」を実施している。



SMK 株式会社



障害者アスリートの 雇用及び情報発信

自社障害者アスリートの活動情報やウィルチェアーラグビー関連の情報をSNSを通じて発信するなど、障害者スポーツの知名度の向上を促進している。また自社障害者アスリートの試合等に有志社員で応援参加するなど、障害者スポーツの普及を支援している。



地域との共生

青梅信用金庫

青梅信用金庫



スポーツ大会・イベントへの ボランティア派遣

長年に亘り、青梅マラソンに大会実行委員として運営協力しているほか、参加者用のグッズ提供や約200名の役職員が大会の参加選手受付ボランティアを担当するなど、協賛企業として様々な面から大会運営支援を行っている。



Otsuka

大塚製薬株式会社 東京支店



部活動への支援

中学校や高校に講師を派遣し、スポーツ部活動におけるコンディショニング維持とパフォーマンス向上のため、適切な水分補給や食生活などを指導する取組を実施し、スポーツ活動を支援している。



株式会社オフィス 24



シットイングバレーボール教室 の開催

月に一度、シットイングバレーボールの体験教室を開催しており、教室は、パラリンピックシットイングバレーボール日本代表監督・選手等の協力のもと、実施している。また、シットイングバレーボールのオリジナルチームを作り、全国大会に出場したり、他団体との交流会などを行っている。



株式会社オーエンス



アスリートの雇用及びサポート

アスリートを雇用しており、大会出場時には社内会議や掲示板等で情報共有し、社内全体で応援できるようにしているほか、アスリートの後押しになるように、横断幕や応援パネルを作成するなど、様々な面でアスリートの活動を応援している。

CAC 株式会社 CAC Holdings
株式会社 CAC Holdings



スポーツ大会（ボッチャ）への社員派遣を通じた大会運営支援

グループ内に設置したボッチャ支援事務局が中心となり、ボッチャ日本選手権のほか、関東圏での大会やイベントに社員を派遣し、受付や誘導などスポーツ大会の運営を支援している。また、社内外での体験会開催や観戦環境改善を目的としたITツールの開発、競技説明ムービーの制作、日本ボッチャ協会WEBサイトのリニューアル支援など、競技普及に向けた様々な取組を行っている。



関西ペイント株式会社



ボウリング大会の実施

社員の親睦を深めることを目的に、部署対抗のボウリング大会を毎年実施している。ボウリングを通し心身のリフレッシュを図っている。競技の得意不得意に関わらず参加者全員が楽しめるよう当日賞（日付賞）など複数の賞を作る工夫している。毎年本件を積み重ねることで、スポーツが社内の一休感の醸成に寄与している。

JP かんぽ生命
INSURANCE 株式会社かんぽ生命保険



社員・社外向けラジオ体操・みんなの体操の取組支援

始業時や昼休みにラジオ体操を実施している。また、社員のラジオ体操にかかる公認指導の資格取得を支援するとともに、ラジオ体操のCD・DVDを作成し配布するなど、普及推進に取り組んでいる。



株式会社協栄



階段利用の促進

平成24年度より本社ビルにおいて、メタボリック改善の取組として階段利用を促進している。さらに、アスリート社員が出場する大会等の観戦等を積極的に実施している。



株式会社協和



スロトレ（スロートレーニング） の実施

もともと始業前に任意参加として行われていたスロトレを、社員の健康増進を目的に、2011年2月より毎朝15分間実施している。性別・年齢を問わずに短時間、かつ場所も取らずにできるため、長期的な取組として行っている。また、全社員で一体となって取り組むことで、業務の一体感を生み出している。

KYOWA KIRIN

協和発酵キリン株式会社



スポーツを通じた社会貢献活動

協和発酵キリン卓球交流大会には毎年各地から約700名が参加する。また、卓球部は障害者支援施設を訪問し、卓球の楽しさを共有している。さらに、自社の施設を公開し、近隣の方々にウォーキングやテニスなどのスポーツの場を提供して地域と交流している。



株式会社久慈設計 東京支社



アスリート社員の広報誌発行による 社内外への活動内容・近況等の周知

女子アイスホッケーの小西選手を雇用しており、選手の近況や活動を報告する広報誌「あかねだより」の社内外への配布や、社員が練習の見学や試合への応援をするなど、社員一丸となって小西選手をサポートしている。



京王観光株式会社



社員スポーツ活動を支援

社内で承認したクラブ活動に対して、クラブ活動補助金を支給するなど、社員のスポーツ活動を支援している。スポーツを通じた部署間の人事交流は、社内に連帯感を生み出すことに大きく貢献している。



高栄警備保障株式会社



社員スポーツ活動に対する支援

野球部、卓球部、空手道部、剣道部を保有している。社内の空き会議室を活用した活動や、取引先などとの練習試合も開催しており、スポーツを通じて社員同士のコミュニケーションの機会をつくることを目的として活動を実施している。

KSW 国際ソフトウェア株式会社

国際ソフトウェア株式会社



社内部門対抗ウォーキングの実施

全社員及び会社 OB、OG を対象に参加を呼びかけ、ウォーキング大会を実施している。特に定期健康診断で一定の数値が出た社員には参加を促している。開催都度、志向を凝らした企画を考え、運動習慣の定着化に繋げている。またグループで競い合う事は必ず企画に盛り込み、社員間のコミュニケーション活性化にも役立てている。

KONAMI SPORTS CLUB

株式会社コナミスポーツクラブ



アスリートの雇用及び 大会出場の活動支援など

水泳 3 名・体操 9 名の現役アスリートを社員として雇用するとともに、現役を引退した元アスリート 8 名が自らの経験を生かして選手やお子さまの指導者として勤務している。

雇用したアスリートが国内大会に出場する際、社員やその家族が試合会場で応援を行い、国際大会の場合は、本社内でパブリックビューイングを実施している。



コミュニティベースドリハビリテーション協会



社員スポーツ活動に対する支援 (精神障害者フットサル)

精神障害等を持った方を対象としたフットサルチーム「スペリオ城北コンセンシオ」への監督コーチ、マネージャーの派遣と、練習費、大会参加費の補助、備品の提供を行うなど支援をしている。スポーツを通じて、地域住民への障害の理解、交流を行っている。

バランス・動作改善! **ホグレル**

Hogrel®

是吉興業株式会社



自転車通勤の推奨

自転車の快適さを伝えるために、自転車旅行などの自転車イベント等を企画・実施している。また、会社に自転車の駐車スペースを確保するとともに、自転車通勤の場合も公共交通機関と同額の通勤手当を支給するなど自転車通勤を推奨している。

GOLDWIN

株式会社ゴールドウィン



社内スポーツ大会の実施

従業員の健康増進と職場の風通しを良くすることを目的として、年一回、10月下旬に東京地区、関西地区、北陸地区の従業員が富山県に集合し、各クラブ単位で交流を行う全国スポーツ親善大会を実施している。大会では、普段運動をしない従業員に対するスポーツ体験教室やプロ選手によるジュニアサッカー教室の開催も併せて行った。

S SPORTS

有限会社コンディショニングサポートウィズ



マラソン大会の開催

毎月第一日曜日に多摩湖において月例マラソン大会を開催している。社員全員が、多くのランナーのサポートを行い、毎回の参加費をNPO法人武蔵野倶楽部を通じてエチオピアの孤児院へ寄付している。また、エチオピアのマラソンクラブチームの支援も行い、選手の中には、大会の賞金でホテルやレストランを建てる選手もいるなど、エチオピアの地域振興にも貢献している。



SUNNY SIDE UP

株式会社サニーサイドアップ



社員のスポーツ活動・健康維持に対する支援

野球・フットサル・マラソン（東京ランナーズ）・ゴルフ・バスケットボールなどの部活動への活動補助金を支給するなど支援している。また、業務時間内でも無理のない運動機会を創出できるよう、月初の全社朝礼にてストレッチを行ったり、月間平均1万歩を達成した社員に報奨金を支給する制度を導入し、ウォーキングを習慣化するなど社内で行えるガイダンスを実施している。

スポーツクリエイティブカンパニー
THE FIRST

株式会社ザ・ファースト



アスリートの雇用及び 応援観戦ツアーの実施

毎年4月に開催される日本選手権水泳競技大会に社員・取引先・家族・関係者向けの応援観戦ツアーを実施している。特に昨年の日本選手権においては総勢150名の大応援団でリオ五輪代表選手選考会に臨み、見事にオリンピック出場を叶えることができ、最後の最後まで諦めない姿勢を伝えてもらった。



人と環境と健康、見守ります。

Sun-Amenity

Amenity Group

株式会社サンアメニティ



スポーツ大会・イベントへの参加

社員の健康増進及びスポーツ振興の考えから、社員の地域のスポーツイベント（マラソン、自転車、水泳、トライアスロン等）への参加を推奨している。会社活動の一つである指定管理者事業において、スポーツ施設管理運営を多数行っていることから、自治体主催の大会への参加やボランティアスタッフとしての参加など、社員の自発的行動により積極的に取り組んでいる。

JOREX
Development of the Next Pleasure
ジェイレックス・コーポレーション

ジェイレックスコーポレーション株式会社



スポーツ大会・イベントへの参加

地域で開催されるマラソン大会等のスポーツイベントへ全社員から希望者を募り参加している。イベントへ向けて合同練習等、計画的な練習を行うことで各社員が目標を持って定期的にスポーツ、運動を行うように工夫を凝らしている。

SIGMAXYZ

株式会社シグマクシス



障害者アスリートの雇用及び 大会出場等の活動支援

障害者アスリートを雇用している。大会及びトレーニングに専念し、スキルアップを図りやすい環境・制度を整備している。社外に向けては、メディアやSNSを通じて雇用アスリートの情報を発信し、知名度の向上を支援している。また、社内向けの講演や実技イベントを通じて、障害者アスリート及び障害者スポーツに対する、社員の関心や知見を向上させる取り組みも行っている。



じげん
ZIGEN OVER the DIMENSION

株式会社じげん



社員スポーツ活動に対する支援

4階建てオフィスのエレベーターを原則使用禁止とし、階段の利用を促進していることに加え、スポーツイベントに挑戦し、健康を増進することに対しても費用を援助する、健康増進のための活動応援制度を実施している。具体的には、チームレースに社員が参加する際の参加費及び練習費用を支援している。



ZIPSQuality

株式会社ジップス



障害者向けインラインスケート教室の開催

障害者向けインラインスケート教室を月1回、知的障害、発達障害、ダウン症の子供を中心に実施しており、社員に対しても、定例会議やFacebookなどで教室の実施報告やボランティア参加の呼び掛けを行っている。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

清水建設株式会社



障害者スポーツ体験会への参加

障害者スポーツ支援を目的に非営利活動を展開するNPO法人STANDを協賛しており、STANDの活動に協力するとともに、支店との連携を図り「障害者スポーツ体験会」を実施している。体験会では、各種障害者スポーツ体験のほか、パラリンピックメダリストによる講演も実施している。



株式会社 シモン

株式会社シモン



チーム対抗ウォーキング大会の実施

参加者でチームを作り、チーム対抗ウォーキング大会を実施している。また、週1回朝にラジオ体操の実施や社内の階段に消費カロリーや応援メッセージを掲示するなど、階段利用を促進している。



城北信用金庫

城北信用金庫



講演会・運動教室などを通じた地域のスポーツ振興支援

競技種目や活動拠点の異なる選手たちが、ひとつのチームとして活動し、地元小学校で講演会や運動教室を行うなど地域社会とのコミュニケーションを深めている。所属選手が出場する競技会には、参加選手以外の選手が各部署を回って応援参加者を募り、当日も応援参加者に競技ルールの説明を行うなど、金庫としても一体感が醸成されるよう図っている。



叙々苑

株式会社叙々苑



社内スポーツ大会の実施

軟式野球部やバレーボール部、駅伝部などの社員の部活動を推進しており、各部のリーダーが中心となって、部員募集や活動計画の立案を行い、部の活動内容に応じて運営費を会社から支給している。また、新入社員研修で登山や運動会などを行っている。また、社員のボウリング大会も開催している。

Xincor miXell Co., Ltd.
XON Holistic Matrix Group



株式会社シンカーミクセル



社内スポーツ大会の実施
東京マラソン参加・応援推進

月1～2回程度のスポーツイベントを開催を実施している。フットサルやヨガ、散歩などの定期開催の種目に加え、卓球、スケート、テニスやウォーキング大会など、様々な種目のイベントを都度企画している。また毎年2月開催の東京マラソンにグループ会社も巻き込んだ社内的一大イベントとして参加している。社内宣伝など応援体制を組んで盛り上げている。



信号器材株式会社



被災地支援（卓球教室の実施）

日本卓球リーグに加盟し、年2回（前期・後期）の大会に参加すると共に、地元の方々が無料で観戦出来るリーグ戦を開催している。また、被災地支援及び地域貢献活動として、卓球教室を開催している。



株式会社スタートライン



障害者アスリートの 雇用及び活動支援

女子車いすテニス選手を雇用し、大会時に社員に応援を呼びかけ、みんなで応援に行くなど活動を支援している。誕生日には、ケーキでお祝いをするなど、競技以外での交流も増やしている。また、障害者スポーツのポータルサイト「チャレアス」を通して、大会の取材記事の発信を行っている。



株式会社スポーツビズ



社員スポーツ活動に対する支援

社内スポーツ活動促進制度（テニス・フットサル・ゴルフ等）を実施している。発起人が全社員へメールで開催日時や内容を告知して、都度参加者を募集し、また毎週の全社朝礼で参加を呼び掛けるほか、各部署の責任者は、部員ができる限り参加できるように業務の調整を心がけるなど、社員のスポーツ活動を支援している。



株式会社スマートスポーツエンターテイメント



スポーツ大会・イベントへの参加

スポーツイベント（フットサル・ランニング・ヨガ等）への参加するとともに観戦会を開催している。得意分野である広報・PR・イベント等の視点から、スポーツと社会をつなげられるよう意識し、各関連イベント等の当社HP、SNSなどでの告知、社内はもちろん商店などへのポスター掲示、スポーツメディアへの声かけなどの周知を行っている。



株式会社住ゴム産業



社内部門対抗スポーツ大会の実施

社内の各支店も参加するボーリング大会やソフトボール大会などを実施している。この取組を通じて、社員の健康増進、スポーツ推進はもとより、コミュニケーションの円滑化を図っている。



住友不動産エスフォルタ株式会社



アスリート社員に対する活動支援

アスリート社員の競技成績や取組内容に応じて、大会参加費や遠征費を補助するなど活動を支援している。また、活動を社内報で発信するなど、社員のスポーツを推進している。フィットネスクラブらしい、スポーツにおける優秀な人材を活用することで顧客満足度の向上と競技人口の裾野拡大を目標とし、取り組んでいる。



株式会社セブン銀行



駅伝大会への参加

従業員及びパートナー企業を対象に参加費用の補助をするなど外部の駅伝大会への参加を推進している。また、駅伝ユニフォームとして、協賛している読み聞かせ絵本「森の戦士ボノロン」が描かれたTシャツを毎年制作し着用の上、大会に参加するなど、一体的に取り組み、健康促進、コミュニケーションの活性化につなげている。



セントラルスポーツ株式会社



小学校での「着衣水泳」教室の実施

コーチが店舗の近隣小学校に出向き、「着衣水泳教室」を実施している。約1時間程度、プールにて水泳の授業として行う。衣服を着ていると水中ではどれだけ動きにくいかを体験し、事故防止の為の対処法を身につけられるよう指導を行っている。



株式会社ゼンリン



協賛しているウォーキング大会への参加

社員の健康増進と社内コミュニケーション活性化のため、協賛しているウォーキング大会へ多くの参加を促している。例年、お揃いのTシャツを作成し、大会で着用することにより、社内一体感の醸成につなげている。



総合警備保障株式会社



スポーツ活動の支援

当社はスポーツを通じて社員相互の団結心向上を図り、社業の発展に努めている。現在は柔道やレスリングをはじめウエイトリフティング、陸上、射撃など10の運動部が活動している。また、各支社・グループにおいても柔道やフットサル、バスケットボール、陸上競技等の指導を行い、子供たちの健全な育成支援に積極的に取り組み、地域社会の発展に寄与している。



損保ジャパン日本興亜

損害保険ジャパン日本興亜株式会社



社員スポーツ活動に対する支援

社員の部活動へ補助金を支給するなど活動を支援している。また、社内広報誌や社内掲示板で活動の周知を図るとともに、Facebook で情報を発信するなど普及を促進している。その他、「スポーツ普及」推進を目的とした「SOMPO ボールゲームフェスタ」の冠協賛や、「SOMPO パラリンアート・サッカーアートコンテスト」など文化芸術面でのスポーツ支援を実施している。



損保ジャパン日本興亜
ひまわり生命

損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社



全社員にウェアラブル端末を配布し、ウォーキングイベントを実施

健康で活動的な生活を推進・支援する取組として、全社員を対象にウェアラブル端末を配布し、社員の歩行促進を図っている。

目標身体活動量の目安として1日1万歩を推奨しており、社員の歩行数を合計して地球5周分を歩く「目指せ地球5周！」や歩数の部署対抗戦「秋の大運動会」等のウォーキングイベントを実施している。



大同生命保険株式会社



「第16回全国障害者スポーツ大会」ではふれあいゲームコーナーを運営

「ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会」を応援

各種障害者スポーツ大会の応援観戦・運営ボランティア参加

特別協賛している「全国障害者スポーツ大会」をはじめ、各種障害者スポーツ大会に延べ1万人を超える職員や家族が、応援観戦や運営ボランティアとして大会に参加している。交通費など経費補助や、ボランティア休暇制度を整備するなど、職員のボランティア活動を支援する制度も設けている。

DNP

大日本印刷株式会社



社員用スポーツ施設の 地域住民への開放

社員が利用できるスポーツ施設（プール・ジム・スタジオ・体育館・リラクゼーションルーム）を「DIS市谷スポーツクラブ」として地域住民にも開放し、スイミング・スタジオレッスン・バレエ・空手・体操・インドアテニスをはじめとした、様々な子供向け・大人向けのスクールを開講している。



太陽生命

太陽生命保険株式会社



スポーツ大会への職員派遣を 通じた大会運営支援

協賛するスポーツ大会を盛り上げるため、職員から運営サポーターを募り、競技団体と協力して大会運営を行っている。

また、協賛スポーツ大会とともに、雇用アスリートが参加する大会には本社や近隣支社の職員から希望者を募り応援ツアーを実施している。



株式会社立飛ホールディングス



大相撲立川立飛場所の開催

勸進元として「平成28年夏巡業 大相撲立川立飛場所」を立川市他多数の後援及び協賛を得て当社敷地内で開催、準備から当日の運営までグループの社員総出で行った。当日は3,500人以上の観客が来場し、地域の子供たちが参加する、ちびっこ相撲も開催した。



すべての革新は患者さんのために

中外製薬

Roche ロシュグループ

中外製薬株式会社



障害者スポーツの普及・啓発

障害者スポーツ啓発に力を入れており、障害者スポーツ体験会を社内だけでなく地域でも実施している。また、スポーツの体験だけでなく障害者スポーツ啓発パンフレット作成・配布や障害者スポーツ大会の協賛を行うことで多くの人にスポーツの楽しさやダイバーシティを考える機会づくりを行っている。

TEIJIN

帝人株式会社



社内ウォーキングイベントの実施

社員と家族の健康増進、職場・家庭内のコミュニケーション活性化等を目的に、帝人グループ健康ウォーキングを毎年秋に実施している。ゲーム感覚で「世界遺産巡り」「ぐるっと一周北海道」等のテーマに沿って、ウォークラリーをしながらバーチャル体験を楽しむ。1か月間の歩数の合計により、個人・チームの優秀者などを表彰している。

DESCENTE

株式会社デサント



スポーツ大会を開催し、特別支援学校の生徒等を招待

豊島区及び目白地域の商店街、住民（町会）、学校、企業などと連携し、「目白ロードレース」を開催しており、大会当日も社員が参加者受付やフード・ドリンクサービスなどのサポートを務めているほか、知的障害者施設や特別支援学校の生徒の招待も行っている。

Duplo

from print to documents

デュプロ株式会社



社員スポーツ活動の推奨による社員交流の活性化

野球、フットサル、駅伝など社員のスポーツ活動を推奨することにより、部長から新人まで、部署の垣根を越えて幅広く参加している。スポーツ活動を通じて「より多くの社員とのコミュニケーション」や「プライベートの充実」を活性化している。

TERUMO

テルモ株式会社

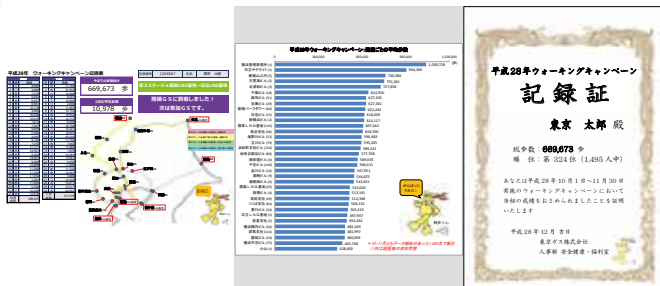


社内ウォーキングイベントの実施

歩いた歩数をアプリで管理し、参加者の平均歩数を競う企業対抗のウォーキングキャンペーンを実施している。各企業目標達成者には、企業で持ち寄った景品を贈呈するなど参加を促進している。また、活動量計を配布したほか、オフィスの中でも歩くことを意識するよう歩幅の目安となるピッチサークルを設置している。



東京ガス株式会社



社内ウォーキングイベントの実施

健康の維持向上のための身体活動量を増やすことを目的とし全ての参加者に歩数と順位を記載した「記録証」を送付するなど工夫を凝らした社内ウォーキングイベントを実施している。上位成績者と支社ごとの平均歩数を社内HPにて掲載しイベントを促進している。



東京システムハウス株式会社



社員スポーツ活動に対する支援

5つの部活動（ゴルフ・駅伝・テニス・野球・フットサル）に対して年度毎に活動補助費の支援をしている。また、各部門の管理職（部長）がリーダーとなり、定期的にサークル活動を実施するなど、他部署の社員とコミュニケーションを図っている。



東京信用金庫



阿波おどり大会への参加

地域の阿波おどり大会へ職員が参加しており、各地域の一大会あたり約40名から60名の職員がチームを組み、大会前には練習に励んでいる。当日の衣装や楽器などについての費用を金庫が負担しているほか、当日の職員の応援や、社内報の掲載など、様々な面から職員の主体的な取組をサポートしている。



株式会社東京都民銀行



都内在住の小学生をサッカー観戦に招待

都内に在住する小学生グループや少年少女サッカーチームを、FC東京の試合観戦に招待している。また、FC東京が掲げるサッカーを中心としたスポーツの普及、振興、地域の活性化に賛同し、青少年育成のための資金を贈呈するなど支援している。



TOKYO DOME SPORTS 株式会社東京ドームスポーツ



障害者バスケットボール教室 の開催

日本バスケットボール選手会と連携し、障害者バスケットボール教室を開催している。板橋区が進める「スポーツで笑顔が輝くまちへ」の施策に賛同し、若い世代のアスリートを支援することで、地元のスポーツ振興の発展を進め、地域の活性化に寄与している。また、スポーツ活動を推進することで、社内が明るく、一体感の構築にも繋がっている。



東武鉄道株式会社



少年野球・サッカー大会への ボランティアスタッフ派遣

28年度で9年目を迎える東武鉄道杯は、(一財)東武博物館が主催する沿線地域における少年野球大会、少年サッカー大会である。東武鉄道は平成27年度までに延べ7,300名を超えるボランティアスタッフを派遣し、会場準備、試合応援等を通じて、次世代を担う健やかな少年少女の成長を支援している。

TOPPAN

凸版印刷株式会社



自社スポーツ施設の 地域SC等への提供

自社の体育館を地域のスポーツクラブおよびプロバスケットボールチーム「東京エクセレンス」へ利用提供している。また、毎朝のラジオ体操や企業運動会、スポーツ専従社員の出場大会の応援、イントラ内での各運動部のホームページやブログの掲載などを実施している。

TOPPAN FORMS

トッパン・フォームズ株式会社



社内ウォーキングイベントの実施

毎年11月頃に労使共催で従業員とその家族が参加できるウォーキングイベントを開催している。様々な部署の社員が参加出来るよう、イベント実施後にそのままご家族で楽しめるように到着時間を早めしたり、ゴール地点を人気の観光地にしたりと工夫している。

あしたを、ちがう「まいにち」に。

TOTO

TOTO 株式会社



健康推進イベントの実施、 企業運動部の応援の実施

毎朝のラジオ体操の実施、ヨガ教室や体幹トレーニング実施、陸上部によるランニング教室開催など社員の健康推進イベントを各種企画・実施している。また、社内イントラにスポーツ支援専用サイトを作成して、社内に応援を呼びかけるなど企業運動部の大会への試合応援ツアーを実施している。

トヨタアドミニスタ株式会社 トヨタアドミニスタ株式会社

(2017年4月1日より「トヨタ東京販売ホールディングス株式会社」へ名称変更)



画像は、16年12月に開催された駅伝大会の様子。

社員のスポーツ観戦・応援の推奨

社員に対して全社掲示板でのスポーツ大会の周知や勤務時間内でのスポーツ観戦を許可するなど社員のスポーツ観戦、応援を推奨している。

NISSIN 日清食品ホールディングス

日清食品ホールディングス株式会社



「健康を維持増進させたい社員」と 「飢餓で苦しむ地域の子どもたち」を結びつけた 「百福士第16弾日清月歩チャリティー WALK プロジェクト」

参加を希望するグループ社員に歩数計を配布し、参加者全員の累計歩行距離の合計が「月」に到達するまで継続する、「日清月歩チャリティー WALK プロジェクト」を実施した。

歩数に応じて支援団体への寄付額が決まる仕組みとすることで「健康の維持・増進」と「世界の食糧問題」への社員の意識向上を図った。



日都産業株式会社



駅伝大会への参加

地域の駅伝大会やランニングイベントに参加している。社長から新入社員まで、各事業所の老若男女による混合チームを編成するとともに、ユニフォームに会社のオリジナルシールを貼ったり、全員参加の打ち上げ懇親会を開催するなど一丸となって取り組んでいる。



TASKAL
Relation Center

公益財団法人日本ケアフィット共育機構



サービス介助士ボランティアによる会場のバリアフリー支援

Jリーグや、ウィルチェアーラグビー、ブラインドサッカーなどの各大会において、「サービス介助士」の資格を有するボランティアスタッフが常駐し、障害のある方への情報提供や案内誘導などの対応を行っている。ボランティアを勤務日として扱い、休暇を用意するなど、積極的にボランティア参加ができるよう体制を整備している。



日本写真判定株式会社

日本写真判定株式会社



自転車競技選手育成・支援 競輪場のサイクルスポーツ普及拠点化

国際大会を目指す選手の機材、練習場所の提供及び、自転車競技の選手を雇用して「安心して競技に取り組める環境」を整備している。

また、サイクルスポーツの普及拠点として競輪場を活用し、自転車の面白さやスポーツ性を知ってもらうための「サイクルクラブ」を主宰している。



日本生命

NISSAY

日本生命保険相互会社



障害者スポーツ大会の観戦

本店・本部のある大阪・東京在籍職員、ならびにその家族を中心に、障害者スポーツの大会を観戦している。大会の際には、障害者スポーツ特有のルールや、注目選手をイントラネットで紹介するなど、事前に見どころを共有することにより、職員の理解をより深められるよう取り組んでいる。



日本通運

NIPPON EXPRESS

日本通運株式会社



自社スポーツ施設の 大学等への利用提供

企業や大学などの各団体からの利用要請に基づき、本社ビル B1F の武道場（柔道場、剣道場、相撲場）を利用提供している。また、自社の運動部との合同練習や交流試合なども実施しており、こうした取組を通じて、地域のスポーツ振興を図っている。

Orchestrating a brighter world **NEC**

日本電気株式会社 (NECグループ)



The Tennis Foundation

NEC パラスポーツ応援プロジェクトの実施

20年以上にわたる車いすテニス支援の実績を活かし、年齢・性別・国籍・障害の有無などに関わりなく、誰もが社会の一員として安心して暮らせる「ユニバーサル社会」の実現に向け、率先してパラスポーツを応援している。

japan medical net communications
jmnc 日本メディカルネットコミュニケーションズ株式会社

日本メディカルネットコミュニケーションズ株式会社 (2016年12月1日より「株式会社メディカルネット」へ名称変更)



アスリートの雇用

現役を引退したアスリートのセカンドキャリア支援として、元アスリートを雇用している。社会人経験や職務経験がなくても本人の努力・やる気を重視した採用を実施し、中長期的に育成する環境を整え、キャリア育成を支援している。

あしたを、つなぐ — 野村不動産グループ

野村不動産パートナーズ

野村不動産パートナーズ株式会社



障害者アスリートの雇用及び大会出場等活動支援

雇用アスリートの競技に関わる費用(遠征費、備品、消耗品、大会エントリー、トレーニング代等)を支援している。また、勤務体系を競技優先にするなど、仕事と競技の両立を応援している。

あしたを、つなぐ — 野村不動産グループ

野村不動産ライフ&スポーツ

野村不動産ライフ&スポーツ株式会社



競技団体への支援

自社スポーツ施設を不定期に競技団体に利用提供している。また、小学校のプールを利用し、小学生向け着衣水泳教室を実施している。

NOMURA

野村ホールディングス株式会社



障害者アスリートの雇用及び 情報発信等活動支援

イントラネット上に特設コーナーを設け、社員パラリンピアンによる競技の魅力や、国際大会への出場経験を社員に発信している。また、障害者スポーツ競技の紹介や、大会情報を開示し、社員による積極的な観戦、競技体験を促進している。

感動のフィールドを

長谷川体育施設株式会社



生涯スポーツ社会の実現を目指し スポーツに親しむ機会を創出

陸上部に所属するアスリート（うち1名は障害者アスリート）の競技活動を積極的に応援している。また社会貢献活動として自治体が主催する陸上教室や講演会へ選手が講師として参加し、スポーツ交流を実施している。さらに社員の健康管理や体力増進、社員親睦を図るためスポーツサークルの活動を支援している。



PASONA

株式会社パソナグループ



社内スポーツ大会の実施

パソナグループ各社の社員とその家族が、スポーツを通じて互いに知り合い、グループ内のコミュニケーションを促進するとともに、健康的な身体作りを意識する機会として「パソナグループ大運動会」を開催している。また、2016年には兵庫県淡路島で年齢国籍を問わず誰もが参加できる「UNDOKAI World Cup」を開催するなど、地方創生と健康社会の実現を目指す取組にも注力している。



Fujikura

株式会社フジクラ



グループ会社も含めた従業員が参加 可能なウォーキングイベントの実施

グループ会社も含めた従業員が参加可能な「歩数イベント」を年2回開催している。個人成績だけではなく部署ごとにチームを編成の上、対抗戦を行う。参加者にはランキング等閲覧可能個人専用WEBページを提供しイベントへの参加を促進している。



富士通株式会社



アスリートによるスポーツ・健康促進及び 応援観戦ツアーによる社員の気運醸成

100名以上の運動部選手が在籍し、地域住民へのスポーツ教室や社員の健康増進に向けたウォーキング講座等を実施している。

パラスポーツやプロスポーツの支援、運動部の応援を通じた社員の挑戦マインドを醸成している。



有限会社プレミナ



障害者アスリート支援活動の一環として社内で手話講座を開催

障害者アスリートの支援活動の一環として、社内で手話講座を開催し、手話による聴覚障害者アスリートのサポートに力を入れている。講座は、手話講座用のDVDを使用、または講師を招くなどして、社員、スタッフ共に月2回の練習会を実施している。



文化シャッター

文化シャッター株式会社



自社実業団チームによる地域の スポーツ教室や大会の開催

アルティメット*実業団チーム「文化シャッター Buzz Bullets」の選手によるアルティメット教室を毎週実施している。

また、地域の自治体と連携し、主に子ども達の運動能力向上を目指したフライングディスク体験教室や、アルティメット大会を開催している。

*7人制のチームスポーツで、フライングディスクを落とさずにパスして運び、コートの中のゴールエリア内でディスクをキャッチすれば得点となるスポーツ



株式会社ホスピタリティ・ワン



バランスボールを活用した 会議の実施

社内会議をバランスボール上に座って行っており、その際にはただ座るだけではなく、理学療法士が姿勢崩れが無い、正しい姿勢で座れているか評価することで、トレーニングの効果を向上させている。姿勢などを普段から意識することで、社員の健康増進を目指している。



堀江車輻電装株式会社

堀江車輻電装株式会社



障害者と健常者の混成 フットサルチームの発足・運営

障害者支援事業部を中心に、社内・取引企業の有志と障害者の混成フットサルチームを発足し、日々活動を継続している。社員に向けた障害理解の促進と共に、スポーツというコンテンツを通じた障害理解の仕組み作りの発信を目指している。



株式会社ホリプロ



社員のスポーツ部活動の推奨

マラソン部、ゴルフ部、卓球部など、社員の健康促進活動を推奨している。また、所属アスリートの試合観戦や、障害者スポーツなど、社員の積極的な観戦を促している。



前田道路株式会社

前田道路株式会社 東京支店



毎朝のラジオ体操の実施

職場従業員全員で毎朝のラジオ体操を実施している。平日の始業チャイムの後に「ラジオ体操第一」を流し、各部署のリーダーが前に出て体操を実施している。取組を通じて、他の社員の体操の様子を観察することにより、健康状態の把握も同時に図り、職場にメリハリと活気が出ている。



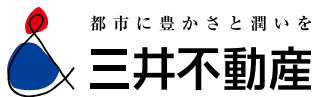
三井化学

三井化学株式会社



運動量等によって得られるマイルを 貯めるヘルシーマイレージ合戦！

運動等によりポイントを獲得し、チーム又は個人で競いあう社内スポーツを実施している。携帯電話のアプリからも登録・利用が可能で、日々の生活やイベントへの参加で獲得したポイントが様々な健康グッズと交換できるなど、参加のしやすさ、継続して楽しめる点が、社員の健康意識の向上に寄与している。



都市に豊かさと潤いを
三井不動産

三井不動産株式会社



オリンピック・パラリンピック競技 の体験教室を開催

一流アスリートを講師として、オリンピック・パラリンピック競技を紹介し、体験の場を提供する1day スポーツ教室“三井不動産スポーツアカデミー for TOKYO 2020”を開催している。



すまいとくらしの未来へ
三井不動産レジデンシャル

三井不動産レジデンシャル株式会社



スポーツフェスティバルの開催

健常者、障害者の区別をせず、広くたくさんの人たちが同じ舞台、同じルールで参加できる開かれたスポーツフェスティバルとして“ザ・コーポレートゲームズ東京”を開催している。企画・運営することによって東京湾岸エリアの活性化を目指している。



株式会社三越伊勢丹



社内スポーツ大会の実施

当社グループでは、共済会と共同で事業会社・勤務地・雇用形態を超えた交流を図り、従業員の健康推進し「グループ健康ビジョン」実現するために、運動会を開催（参加約5,000人）している。綱引き、ジェンカ、チーム対抗世代別シャトルランリレーや場外アトラクションなど、多くの参加者が楽しめるプログラムを用意している。



三菱電機株式会社



障害者スポーツ普及と共生社会の理解促進プロジェクト 「Going Up キャンペーン全国キャラバン」の展開

車椅子バスケットボールを中心とした障害者スポーツの体験会・デモンストレーションを、各地の障害者スポーツ協会などの団体と連携し実施している。多くの方に体験してもらえるよう、各地のメディア主催イベントの中で実施し、東京では2015年、2016年の2年続けて「ニッポン放送ラジオパーク in 日比谷」で実施した。

インテリア
むらそう

有限会社村装



スポーツ大会（テニス）への 選手派遣

積極的にテニス大会へ選手を派遣し、28年度は軽井沢国際ベテラン優勝、全日本ベテランベスト8など、優秀な成績を収めているほか、当社所在地周辺のテニスサークル活動への参加や、テニスの競技指導、活動支援を行って親睦を深めている。

MEIWA **明和地所**

明和地所株式会社



社内に社員用トレーニングジムを完備し、 フィットネスプログラムを実施

自社内に設置したトレーニングジムを開放し、従業員の健康増進を図っている。また、月に数回程度、外部講師を招いてヨガ・ストレッチ・ピラティスなどのフィットネスプログラムを実施している。

年に一度行われる「運動会」には全グループ会社の従業員や家族が参加し、スポーツを通してコミュニケーションを図るとともに、仕事の活力へとつながる場とすることを目的として実施している。

MetLife
メットライフ生命

メットライフ生命保険株式会社



障害者アスリートの雇用及び 講演会の開催

障害者アスリート社員が中心となり、“ウィルチエアーラグビー”の社員体験会を実施している。また障害者アスリート社員による、車椅子スポーツ体験や実体験を基にした講演会を小中学校の授業の一環として実施している。


YASUMA CO.LTD

ヤスマ株式会社



社員スポーツ活動に対する支援

全部署、全事業所の社員が参加し、毎朝始業時にラジオ体操を実施している。そのほか、ボーリング大会の実施や、社内フットサルクラブ（FCヤスマ）の活動支援など、社員の健康維持管理のため様々な取り組みを行っている。



山本光学株式会社



階段利用の促進

階段利用を促進しており、各事業所の階段の目につきやすい場所に手作りのポスターを掲示し啓蒙を図るなどの取り組みを行っている。特に、本社（6階建て）においては、3フロアの昇り降りは、原則歩くよう、取組を励行しており、東京支店（8階に入居）でも階段をできるだけ使用するように奨励している。



株式会社ユニクロ



社員スポーツ活動に対する支援

陸上部が定期的に社内及びに地域の小学校・中学校向けにランニング教室を開催している。技術的なアドバイスやトップアスリートの体験を伝えることで社員や地域のスポーツ活動を支援している。



株式会社読売広告社



スポーツ大会・イベントへの参加

28年度もザ・コーポレートゲームズ東京に社員237名が参加した。また、本社の3団体（野球部、テニス部、トライアスロン部）及び新たに誕生した「読売アスリートクラブ」などの社内公認運動サークルに対し、活動補助金を提供し、競技場の利用料や道具の購入に利用してもらい、スポーツを通じた社内交流を推進している。



リーフラス株式会社



障害者アスリートの雇用及び講演活動の実施

障害者アスリートが競技に専念できるよう正社員として雇用しており、アスリートの国際大会出場時には全社員に周知し、HPや社内報等でも結果等の情報を公開・共有している。また、アスリートによる講演会や障害者スポーツの体験会も実施し、パラスポーツの普及に努めている。



Linking your dreams
リンテック株式会社

リンテック株式会社



地域の障害者と少年野球チームを プロ野球観戦に招待

同社の本社がある板橋区に在住している障害者や区内の少年野球チームに所属している小学生を東京ドームでのプロ野球観戦に招待している。同区が進めている「スポーツで笑顔が輝くまちへ」の施策に賛同し、地域のスポーツ振興に寄与している。



株式会社ルネサンス



スポーツ大会・イベントへ参加

マラソン大会を定期的に自社開催したり、専用サイトやブログを活用し、大会情報等を共有したり、月1回の社内報活用による活動や結果を情報発信している。

これらの取り組みを通じて各種ランニングイベントなどには従業員が継続的に参加している。

東京都スポーツ推進企業 認定ステッカー・ロゴマーク

「東京都スポーツ推進企業」として、東京都の認定を受けた証です。

認定を受けた企業は、認定ステッカーを掲出、ロゴマークを広告等に表示し、「東京都スポーツ推進企業」であることをアピールできます。



東京都スポーツ推進企業 認定ステッカー



東京都スポーツ推進企業ロゴマーク

平成 28 年度東京都スポーツ推進モデル企業選定委員会

平成 28 年度東京都スポーツ推進モデル企業選定委員会委員名簿

(平成 29 年 3 月現在)

	氏名	役職
1	きむら かずひこ 木村 和彦	早稲田大学スポーツ科学学術院教授
2	たぐち あき 田口 亜希	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事
3	まるやま ただし 丸山 正	公益財団法人日本レクリエーション協会 専務理事
4	あじま きよし 安蔦 潔	東京商工会議所 サービス・交流部長
5	あまの みわ 天野 美和	オリンピック・パラリンピック準備局 スポーツ推進部障害者スポーツ課長
6	かさまつ こうじ 笠松 恒司	福祉保健局保健政策部健康推進課長

委員からのコメント

- 中小企業でも無理なく取り組める内容もあり、いろいろな企業で取りくんでほしい。
- 社員が自ら、自発的に取り組んでいる取組もあり、他の企業の見本にもなる。
- ライフスタイルの転換になるような独創的な取組もあり、他の企業にも推奨したい。
- 日常生活に工夫を凝らすことで、社員の自覚を促せる取組もあり、評価したい。

平成 28 年度東京都スポーツ推進企業取組事例集

平成 29 年 3 月 発行

印刷物規格表 第 1 類
印刷番号 (28)114

発 行 東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話 03(5320)7723 FAX 03(5388)1337
ホームページ <http://www.2020games.metro.tokyo.jp/>

印 刷 株式会社上野印刷所
〒136-0071 東京都江東区亀戸 5-42-15
電話 03(3636)6311 FAX 03(3636)6316



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

※石油系溶剤を含まないインキを使用しています。

SPORTS PROMOTION COMPANY

◆問い合わせ先◆ 東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課
〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号 Tel.03-5320-7723